

事業年度 基準日	毎年4月1日から翌年3月31日まで 定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日	期末3月31日 中間9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777
公告方法	電子公告 当社ホームページ(http://www.tocalo.co.jp/) に掲載します。
単元株式数	100株

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



第59期 中間報告書

2009.4.1～2009.9.30



代表取締役社長 町垣 和夫

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は当社に格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年に関じた100年に一度と言われる世界同時不況の影響は、当社グループを取り巻く経営環境に大きなダメージを与え、いまも厳しい状況が続いております。

当社の最大需要分野であります半導体製造装置分野では、半導体価格の上昇により、漸く設備投資を再開するなど一部で回復の動きも見られますが、受注状況全般では依然として低調な状況であります。

この様な経営環境の中で、不況を乗り越えるため、市場開拓による受注回復に積極的に取り組むと共に全社あげてのコスト削減に努め、業績向上に鋭意努力を続けております。

この苦しい時期にこそ、「研究開発型企業」として5年先、10年先も成長が継続できる新しい技術開発、商品開発、市場開拓を進め、強い会社作りに取り組み、世界同時不況を新たなステップにつなげたいと考えます。

株主の皆様におかれましては、何卒引き続き格別のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Q. 上期の業績について教えてください

A. 大半の企業が設備投資を抑える中で売上確保に努めましたが、上半期の連結売上高は82億45百万円(計画比2億5百万円減、達成率97.6%)となりました。

上半期売上高で計画数値を達成した業界、部門は次のとおりです。

- ・液 晶 分 野：液晶テレビの販売台数が増加したことにより液晶製造装置関係および液晶ガラス関係の受注が回復しました
- ・産業機械分野：鉄道車両用電気絶縁ベアリング、発電用ボイラー工事などエネルギー関連の受注が好調でした
- ・石油化学分野：石油コンビナートにおけるプラントの定期修理工事の受注が増加しました
- ・Z A C 処 理：IT関連品の増産により好調に推移しました

その他の業界、部門は売上計画の達成には至りませんでした。

利益につきましては全社あげてのコスト削減対策に取り組んだ結果、連結経常利益は4億50百万円(計画比1億50百万円増、達成率150%)、連結中間純利益は2億21百万円(計画比61百万円増、達成率138%)を確保することが出来ました。

Q. 配当方針について教えてください

A. 株主様に対する利益還元につきましては、この様な厳しい環境下ではありますが、中間期の配当としまして1株当たり12円50銭いたします。期末配当も12円50銭を維持し、年間25円の配当を目指します。

Q. 今期の業績見通しについて教えてください

A. 景気の見通しについては継続的な円高進行や内外の景気対策の持続性に対する不透明感から景気の方角性が定まらない状況にあり、先行きはなお厳しい経営環境が続くと見込まれます。

その中であって当社グループは、厳しい環境の中でこそお客様に役立つ省資源、環境対策、コスト削減などを実現していく当社技術へのニーズが大きいと捉え、市場開拓に取り組んでおります。

本年7月には明石工場内に薄膜専用の新工場棟が完成し、これまで研究開発を続けてきました薄膜技術の成果を先端分野に本格的に展開してまいります。新皮膜の開発・市場投入は不況にあっても技術開発、製品開発、市場開拓を途切れず継続する為には必要で、「全天候型経営」を更に進めるものであります。

期初に掲げました重点課題の積極的な推進ならびに市場開拓に取り組み、今期の事業年度目標を達成したいと考えます。

なお、今期の業績予想につきましては、平成21年4月30日発表の通期の業績予想に変更はありません。

Q. 今後の経営戦略と対処すべき経営課題について教えてください

A. 当社グループが持つ技術の適用範囲は無限にあると確信しております。鉄鋼、産業機械、自動車、半導体・液晶製造装置関係と幅広い領域でご使用いただいておりますが、当社の表面改質技術は、製造装置部品に新たな機能を付与することはもとより、エコ社会、低炭素社会と言われる省エネルギー社会において、一度使用された部品を再使用する再生加工を最も得意としております。まさに時勢に合った技術であり、更なる事業拡大を図ってまいります。

また、今後成長が見込まれる電池・エネルギーや新素材の開発関連を中心に、当社グループが持つ表面改質技術の機能、メリットをご理解いただき、新規顧客、新規分野における適用領域を拡大してまいります。

Q. グループ戦略について教えてください

A. 子会社の日本コーティングセンター株式会社は、販売が低迷する自動車産業をはじめ機械産業からの需要減により非常に厳しい状況にあります。当社との協力体制を強化して新たな業界、商品での受注獲得を図ると共に、両社間での技術交流や情報交換をおこない、コラボレーションによる新皮膜の開発に取り組むなど業績の回復に努めております。

また、非連結子会社の東華隆(広州)表面改質技術有限公司は中国におけるコーティング需要に対応できる体制を整えましたが、国内景気の影響を受け業績が停滞しておりました。今後は中国国内の景気立ち直りと共に業績は改善できると考えます。

中間連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

● 中間連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	第59期中間期 平成21年9月30日現在	第58期中間期 平成20年9月30日現在	第58期末 平成21年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	10,814	12,449	12,498
現金及び預金	3,264	2,398	4,077
受取手形及び売掛金	6,085	8,108	6,785
たな卸資産	—	1,440	—
仕掛品	286	—	276
原材料及び貯蔵品	753	—	881
その他	430	507	483
貸倒引当金	△5	△5	△6
固定資産	13,008	14,146	13,181
有形固定資産	11,784	12,454	11,887
建物及び構築物	5,064	4,816	4,558
機械装置及び運搬具	3,010	3,932	3,379
土 地	2,952	2,978	2,952
リース資産	—	—	428
その他	757	727	568
無形固定資産	378	485	423
のれん	—	98	49
その他	378	387	374
投資その他の資産	845	1,206	870
資産合計	23,822	26,596	25,679

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	第59期中間期 平成21年9月30日現在	第58期中間期 平成20年9月30日現在	第58期末 平成21年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	4,441	6,708	5,907
支払手形及び買掛金	1,784	2,803	2,293
短期借入金	—	200	400
1年以内返済予定長期借入金	626	426	626
リース債務	—	—	101
未払金	—	—	472
未払費用	—	—	957
未払法人税等	64	773	234
賞与引当金	533	581	546
その他	1,431	1,924	274
固定負債	2,430	2,089	2,716
長期借入金	969	695	1,282
リース債務	—	—	349
退職給付引当金	865	757	1,037
その他	596	636	48
負債合計	6,871	8,798	8,624
(純資産の部)			
株主資本	16,964	17,781	17,085
資本金	2,658	2,658	2,658
資本剰余金	2,293	2,293	2,293
利益剰余金	12,785	13,361	12,905
自己株式	△772	△531	△772
評価・換算差額等	△13	16	△29
純資産合計	16,950	17,798	17,055
負債及び純資産合計	23,822	26,596	25,679

● 中間連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	第59期中間期 自 平成21年4月 1 日 至 平成21年9月30日	第58期中間期 自 平成20年4月 1 日 至 平成20年9月30日	第58期 自 平成20年4月 1 日 至 平成21年3月31日
売上高	8,245	12,037	22,582
売上原価	6,153	8,246	16,134
売上総利益	2,091	3,791	6,448
販売費及び一般管理費	1,696	1,924	3,809
営業利益	394	1,866	2,638
営業外収益	79	54	114
営業外費用	24	19	44
経常利益	450	1,902	2,708
特別利益	23	3	2
特別損失	5	8	153
税金等調整前中間(当期)純利益	468	1,897	2,557
法人税、住民税及び事業税	53	737	1,108
法人税等調整額	192	28	△21
中間(当期)純利益	221	1,131	1,470

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	第59期中間期 自 平成21年4月 1 日 至 平成21年9月30日	第58期中間期 自 平成20年4月 1 日 至 平成20年9月30日	第58期 自 平成20年4月 1 日 至 平成21年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	949	1,893	4,168
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,145	△683	△1,623
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,114	△1,350	△1,007
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1	0	0
現金及び現金同等物の 増減額	△1,312	△140	1,537
現金及び現金同等物の 期首残高	4,077	2,539	2,539
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	2,764	2,398	4,077

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間単体財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

● 中間貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第59期中間期 平成21年9月30日現在	第58期中間期 平成20年9月30日現在	第58期末 平成21年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	9,891	11,343	11,508
固定資産	13,401	14,419	13,529
有形固定資産	11,063	11,713	11,172
無形固定資産	370	376	364
投資その他の資産	1,967	2,328	1,992
資産合計	23,292	25,762	25,038
(負債の部)			
流動負債	4,273	6,429	5,728
固定負債	2,134	1,825	2,478
負債合計	6,408	8,254	8,207
(純資産の部)			
株主資本	16,898	17,491	16,860
評価・換算差額等	△13	16	△29
純資産合計	16,884	17,508	16,830
負債及び純資産合計	23,292	25,762	25,038

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 中間損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第59期中間期 自 平成21年4月 1 日 至 平成21年9月30日	第58期中間期 自 平成20年4月 1 日 至 平成20年9月30日	第58期 自 平成20年4月 1 日 至 平成21年3月31日
売上高	7,773	11,077	20,922
売上原価	5,777	7,688	15,104
売上総利益	1,996	3,389	5,818
販売費及び一般管理費	1,434	1,632	3,238
営業利益	561	1,757	2,580
営業外収益	89	107	183
営業外費用	40	36	75
経常利益	610	1,828	2,688
特別利益	23	3	1
特別損失	2	5	120
税引前中間(当期)純利益	631	1,826	2,569
法人税、住民税及び事業税	57	670	1,074
法人税等調整額	193	28	△36
中間(当期)純利益	380	1,126	1,530

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

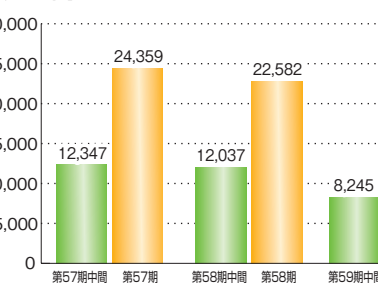
業績ハイライト

Financial Highlight

売上指標

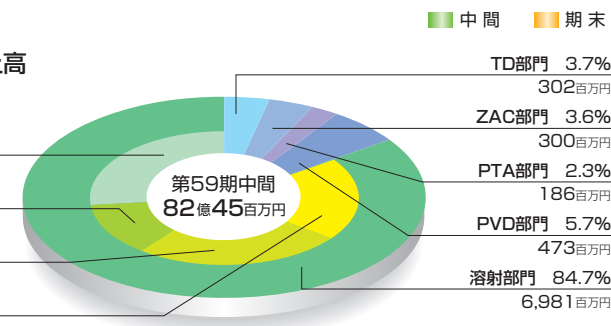
■ 売上高

(単位:百万円)



■ 部門別売上高

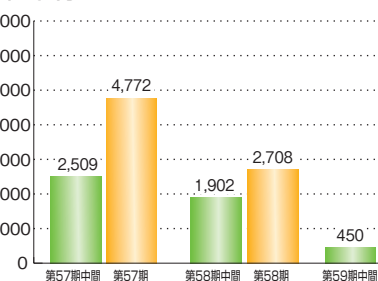
その他
2,176百万円
鉄鋼
1,061百万円
産業機械
2,082百万円
半導体・液晶
1,661百万円



利益指標

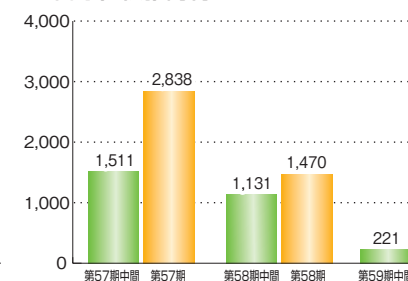
■ 経常利益

(単位:百万円)



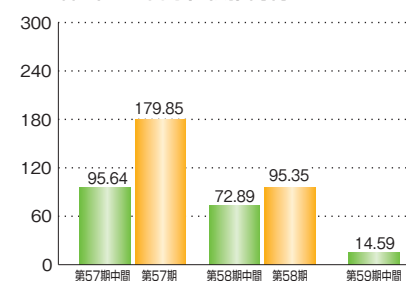
■ 中間(当期)純利益

(単位:百万円)



■ 1株当たり中間(当期)純利益

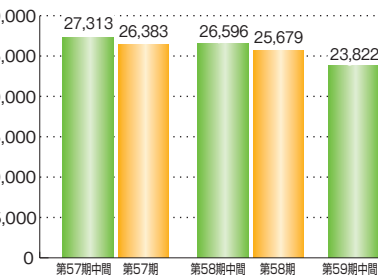
(単位:円)



資産指標

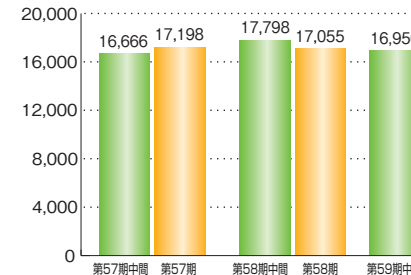
■ 総資産

(単位:百万円)



■ 純資産

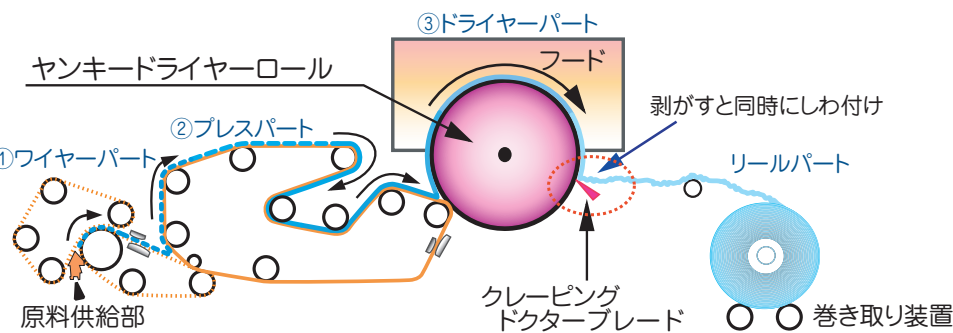
(単位:百万円)



1. 乾燥ロール（ヤンキードライヤーロール）の表面処理例

製紙工場では生産ラインを「新聞紙」、「印刷・情報用紙」、「包装用紙」、「衛生用紙および雑種紙」と「板紙」に分類しています。その中でトイレットペーパーやティッシュペーパーは「衛生用紙」に属します。衛生用紙製造ラインでは抄紙のあとに高温蒸気を通した大型ロール表面に紙を貼り付けて一気に乾燥させます。この乾燥ロールは、直径が3～5.5m程もある巨大なものでヤンキードライヤーロールと呼ばれています。

トーカロの溶射は、ヤンキードライヤーの耐磨耗性の改善、製品品質の改善のほか、ロールの再使用化・長寿命化で、コスト低減、環境負荷低減にもひと役かっています。



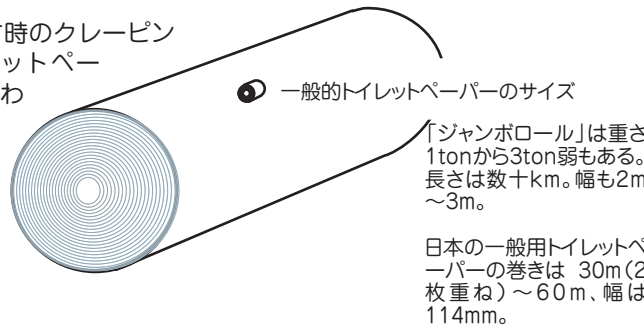
衛生用紙は速いものでは、抄速1000m/分を超える高速抄紙機で生産されています。乾燥の中心となるヤンキードライヤーロールには、接着、離型の容易さに加え、圧力容器としての耐圧性能維持、疵の発生しにくい面性状の持続、クレーピングドクターブレードの擦過に対する耐久性などの特性が必要とされます。

【ティッシュやトイレットペーパー製造ラインの例】

- ①ワイヤーパート【抄紙工程】
紙の原料を網の上に流して薄くならべ湿紙をつくる。この状態では水分が多く固まっていない。
- ②プレスパート【脱水工程】
湿紙に上下からフェルトを当て圧縮して水分をとる。この過程で湿紙の水分量は半分程度になるが十分に乾いていない。
- ③ドライヤーパート【乾燥工程】
ドライヤーロール（ロール内部に蒸気を通し加熱したロール）により湿紙の水分を蒸発（乾燥）させる。

衛生用紙では、乾燥ロールの材質と、ロールから紙を剥がす時のクレーピング（しわづけ）で、製品の紙質は大きく変わります。トイレットペーパーやティッシュペーパーを注意深く観察していただくと、しわが程良く付いて肌当たりの優しい紙と、片面がツツツやでペラッとした感じのする紙が在るのに気づかれると思います。

殆どの場合、前者は鋳物製が溶射皮膜で表面改質をしたロールで乾燥させた製品です。後者は鉄板を巻いて作ったロールで乾燥させた物です。衛生用紙で最初にできるのは右のイラストのような「ジャンボロール」と呼ばれる原料紙のロールです。このロールを再加工して、市販のトイレットペーパーなどを作ります。



2. 材質によるヤンキードライヤーロールの特性比較と溶射ロールの特徴

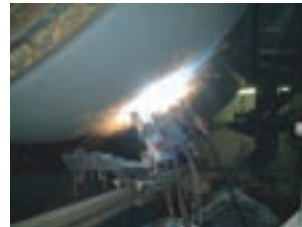
ヤンキードライヤーロール		トーカロのヤンキードライヤー用溶射ロールの特徴
材質	製法、特徴など	
鋳物製	・回転させたロール型枠内面に金属溶湯を流し込み遠心力を利用してロール胴部を作る。 ・金属組織や熱伝導の特性から、紙の品質は鉄板製より評価が高い。 ・製造会社数の減少が顕著。大型対応可能な会社が限られる。	・鋳物と同様組織を形成し、高級感のある紙の製造を可能にする。（ロール材質は問わない） ・耐磨耗性が、鋳物、鉄板よりも数倍勝る。（ロールの再生も可能）
		トーカロのヤンキードライヤー溶射工事の特徴
鉄板製	・圧延鋼板を徐々に曲げてロール状にし、鉄板端面を溶接して胴部を作る。 ・製缶構造のため、熱や圧力で変形する。 ・溶接線では母材と硬度が異なるので、ドクターブレードとの擦過で局部磨耗を発生しやすい。 ・鋳物製と比較すると、重量は約半分、コストも安価。	・鋳物製でも鉄板製でも、ロール材質を問わずに施工が可能。 ・操業条件のまま（*1）、熱影響なしで施工をおこなうので、より理想に近いロール形状と精度確保が可能。（*2） ・製紙工場の設置場所から取り出さずに、現地で前加工研磨、溶射、仕上げ研磨をおこなう。 ・度重なる表面研磨で、圧力容器として限界に近づいているロールを廃棄させずに、再使用かつ延命化と高品質化を同時に達成する。

*1: 乾燥ドライヤーなので内部に高温蒸気を通していている。つまりロール内面には圧力がかかり、表面も高温になっている。
*2: 操業時と停止時では、内部圧力と温度が異なる。つまり内部圧力および熱膨張の影響で、ロールの形状と寸法が異なる。

鋳物製ロールの表面には微小な穴が無数に存在しており、これが紙にソフトな風合いを作り出します。一方、鉄板製ロールは製鉄所で圧延した鉄板を使用するので、乾燥した紙はまさしくアイロンを当てた様なカリカリの紙質になります。

どちらも金属や樹脂他で出来た薄い板をロール表面に常時押し当て、紙を剥がすと同時にしわ作り（クレーピング）をおこなうのですが、ロール表面は擦過によって磨耗し、肌荒れを起こしてしまいます。表面が荒れたり、精度が変わってきた場合には、研磨加工で表面を修正（形状と面粗さ）しなければなりません。

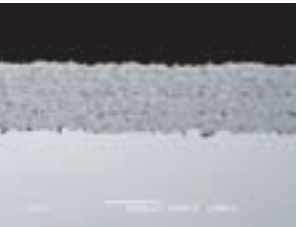
トイレットペーパーに時々穴が開いていることがありますが、それはロールが局部磨耗し、ロールとドクターブレードの隙間に紙が引っかかりたり噛み込んだりして、穴が開いた箇所なのです。



溶射中



仕上げ研磨中



ヤンキードライヤー用溶射皮膜の断面

当社がヤンキードライヤー用に開発した溶射皮膜は、鋳物肌と同様に微小な穴を無数かつ均一に分散し、鋳物製ロールと同様の風合を持つ衛生用紙の生産を可能にします。しかも耐磨耗性は大幅に向上します。

鉄板製ロールの表面に溶射皮膜を形成した場合には、溶接線をカバーして全面同じ硬度、そして鋳物で製作したのと同様な性能表面に変身させることができ、製品の高品質化を実現します。また、限界厚さに近づいたロールも再使用・延命化を可能にし、コストと環境負荷の低減にも貢献しています。

会社概要

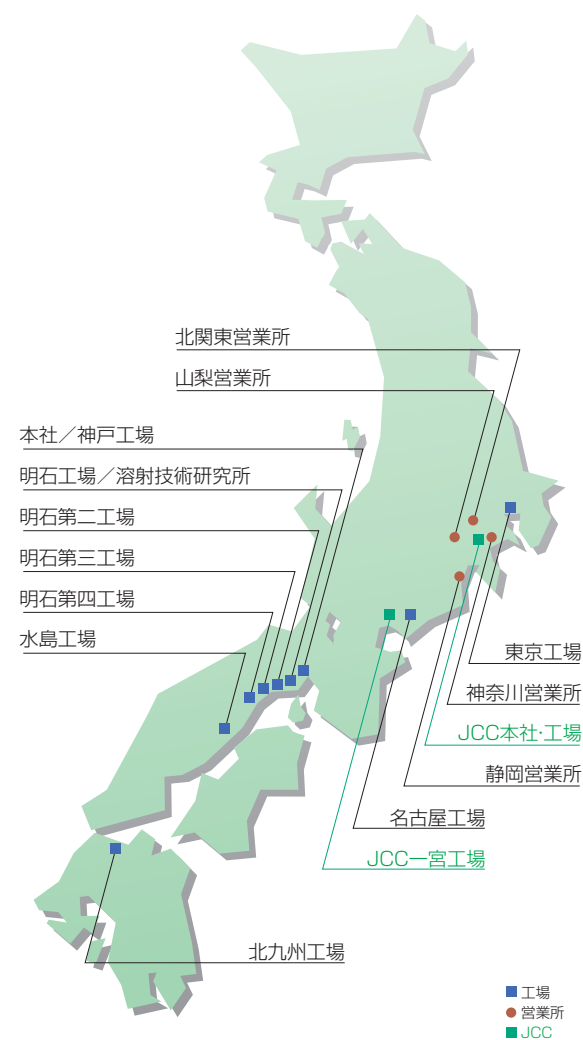
社 名	トーカロ株式会社 TOCALO Co.,Ltd.
設 立	昭和26年7月
所在地(本社)	〒658-0013 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号
資本金	26億5,882万3千円
従業員数	単独496名 連結577名
■子会社	日本コーティングセンター株式会社(JCC) 〒228-0002 神奈川県座間市小松原一丁目43番34号

役 員

地 位	氏 名	担当または主な職業
代表取締役社長	町垣 和夫	
常務取締役	竹澤 進	営業本部長
常務取締役	岡 隆	製造本部長兼環境室長
常務取締役	谷 和美	溶射技術開発研究所長
取締役	木村 一郎	管理本部長兼経営企画室長
取締役	三船 法行	製造副本部長
取締役	北秋 廣幸	営業副本部長、東華隆(広州)表面改質技術有限公司董事長
取締役	樽見 哲男	管理副本部長兼総務部長
取締役	久野 博史	明石工場長
取締役	坂恵 昌弘	弁護士
常任監査役(常勤)	中井 康亘	
監査役(常勤)	藤田 健三	
監査役	日下 敏彦	税理士法人日下事務所代表社員
監査役	四井 賢一	税理士

(注) 1.取締役坂恵昌弘氏は、会社法に基づく社外取締役であります。
2.監査役中井康亘氏、日下敏彦氏、四井賢一氏は会社法に基づく社外監査役であります。

事務所一覧



発行可能株式総数 40,960,000株

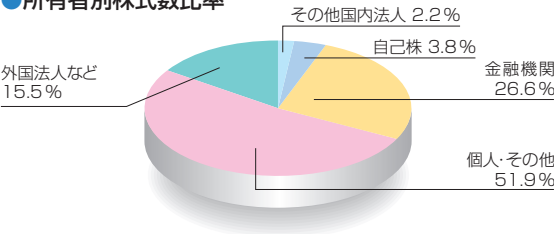
発行済株式の総数 15,800,000株
(内、自己株式600,819株)

株主数 6,652名

大株主

株主名	持株数(千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,311
中平 晃	878
トーカロ従業員持株会	862
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	747
トーカロ株式会社	600
廣瀬 真理子	434
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	339
西條 久美子	259
中平 怜	258
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	229

所有者別株式数比率



地域別株式数比率

